

弱いロボットについて聞いたことはあるだろうか。豊橋技術科学大学の岡田研究室ではちょっと面白い視点でロボット開発を行っている。当該研究室で開発しているロボットは「弱いロボット」という言葉が表すように、能力的に不完全なロボットばかりだ。Youtubeで公開されている動画を覗いてみるとそのほのぼのとした動作に思わず顔が緩んでしまう。一つの例として、ごみ箱型ロボットがある。形状はまさにゴミ箱の形そのものなのだが、小さな足がついていて移動できる。よちよちと人に近づきながら「モコ・・・、モコ・・・」と声を発する

のである。話を聞いていて見かねた人が「桃だよ」というと「そうだった、それぞれ」というような反応を返す。教えてあげて気を良くした人は、更にそのロボットとのコミュニケーションを楽しむ。。

この昔話ロボットも先のゴミ箱型ロボットも何の役に立つのだろうと誰もが思うところである。研究室の岡田教授によると、ロボットと人間の新しい関係の在り方を探求しているとのこと。教授によれば、ゴミを拾ってあげた人も「桃!」と叫んで教えてあげた人も、弱いロボットを助けてあげた自らの行動を通して気分が良くなったり、自己肯

数 | 理 | の | 窓

人の気持ちを動かす 「弱いロボット」



けれど床に落ちているゴミを自ら拾う機能は備わっていない。しかし、人がこのロボットの動作を見るとなんとなくゴミを拾って入れて欲しいなと感じて、ゴミを入れるとロボットは小さくペコリとお辞儀する。気を良くしたその人はまた次のゴミを拾って入れる。。

もう一つの例としては昔話ロボットが紹介されている。このロボットの形状はジブリアニメの木霊（こだま）という精霊を思わせるシンプルなものだ。このロボットはかわいい声で「これから昔話をするね。え〜と。。。」と話しはじめる。しかし、「昔々あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。ある日、おばあさんが川に洗濯にいくと、どんぶらこどんぶらこと。。。え〜と何だっけ?」と話を途中で忘れてしまう

定感に繋がる感覚が得られたりするのだと話している。

さて、この弱いロボット、金融の世界で役に立つであろうか。ESG投資や寄付の機会が拡がる中で、社会貢献へ参加したことによる心地よさも出資を動機づける重要な要素になってきている。貯金箱の形をした可愛げのあるロボットが「モコ・・・モコ・・・」と言いながら社会貢献のためのお金を入れて欲しいように、近づいてきたら思わず小銭を入れる。そのような弱いロボットを職場に一台持って、無理なく社員の社会貢献活動を助ける、などという試みも今後ないとは言い切れないだろう。賢げなハイスペックのロボットよりも弱いロボットの方が人の気持ちを動かすという観点では優れている、そのような逆説的な発想が面白い。 (小粥 泰樹)